

事後評価シート

調査研究課題名	欧州における国際航空ネットワークの動向に関する調査研究
担 当 者	研究調整官 廣松智樹、主任研究官 仲田知弘、前研究官 小田浩幸
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究では、今後の我が国の国際航空ネットワークの検討に寄与することを目的に、欧州における国際線の動向と英国の空港運営会社における取組を把握する。</p> <p>調査研究の成果として、英国、ドイツ、スペイン、フランス、イタリアを対象に、就航地域や方面の視点から国際線便数の動向を把握した。また、英国のガトウィック空港、サウスエンド空港、マンチェスター空港、リバプール空港、バーミンガム空港を対象に、現地ヒアリング調査を行い、各空港の戦略や路線誘致活動、人材獲得や人材育成等に関する取組等を整理し、今後の日本に参考になるものと考えられる。したがって、当初の目標を達成できたものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>本調査研究では、今後の我が国の国際的な航空・空港政策等を検討するため、国際航空ネットワークに関して、欧州の国際線の動向と英国における空港運営会社等の取組について、データ分析やヒアリング調査等を実施した。その結果、空港運営会社は、ヒアリング調査により、地方自治体と協力しながら航空会社への就航誘致を実施し、航空業界に関するデータ分析に関わる人材獲得や人材育成に取り組んでいる。よって、本調査研究の成果は、我が国における国際航空ネットワーク等を検討するにあたって、有効な情報を提供し得るものである。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進める過程で随時有識者ヒアリングを実施し、有識者からご助言をいただいた。有識者は、国内外の航空・空港事業の知見を有する学識経験者に就任いただき、様々な角度からご意見をいただいた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで広く公表することを予定している。また、本調査研究の結果が、国土交通政策や地方公共団体及び業界関係者における国際的な航空・空港政策に資することが期待される。</p>
⑤ その他	<p>平成 29 年度に当研究所が主催する研究発表会において、成果の一部について報告を行った。</p>